

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102236		
法人名	一般社団法人 未来会		
事業所名	グループホームはぎの里		
所在地	熊本市北区植木町鞍掛1782番地		
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果市町村受理日	令和5年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「はぎの里」は熊本市の北部にあり、国道208号線に近い静かな場所に立地しています。建物周辺を竹林に囲まれ、季節の風を感じる事ができます。物忘れが目立ち始めても「楽しく皆で暮らしたい」との思いを込めて、地域の名称萩尾にちなんで「はぎの里」と名づけました。そして自分の両親に利用させたいと思える施設づくりを職員一同目指して取り組んでいます。又「元気の源」となる食には力を入れています。自畑で取れた野菜 市場直送の魚 肉専門店から直売 そしてお米は、七城米を使用し開設当初よりこだわりを持って提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来ホームの歩んだ道のりはしっかりと地域へ認知され、理解と協力が得られている。入居者が日々の散歩コースとされている近隣の細道では、お地蔵様へ感謝の思いを伝え、遠くの人々を見て手を合わせ、馴染みの歌が飛び出すなど地域の中で暮らしが定着している。運営推進会議に参加する地域の代表者からは、コロナ禍でなければ夏祭りや避難訓練にも加わってもらい、本年度は竹山を切り開き新たに駐車場作りに協力してもらうなど、ホームの応援隊的役割を果たされている。入居者一人ひとりの尊重と敬いの心を理念に盛り込み、その気持ちを持って行動すれば殆どのリスク回避につながるのと代表者の言葉は、会議や身体拘束の研修会でも語られ、職員にとって一つの指針となっている。当初より食に力を入れており、職員の「美味しいものを食べてもらいたい」との思いが日々の食事に反映されている。畑での野菜の収穫や下がごしらえ、材料を見て好きなメニューを出し合いながら調理専任者によるアイデアで残食のない見た目にも食欲を駆り立てる料理が入居者の楽しみとなっている。家族からの信頼も厚く、入居者、職員が笑って暮らせるホーム運営に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生の先輩と心得 受容と尊敬の気持ちを持ってケアに当たります」の理念のもと、言葉遣いには細心の注意を払い、お一人お一人の思いを大切にされた対応を心がけています。	開設の由来となった高齢になった、物忘れがあつて当然ですよ「楽しく笑って皆で暮らしましょうよ」の思いが理念を通じて入居者支援に反映されている。代表者は普段から寄り添いと傾聴の姿勢をもって目線を合わせ、上から話すことなく入居者と向き合うよう導いており、ホーム内だけでなく家族や地域へ向けて啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事がコロナ禍で中止する中で、久々の地域行事である、田原坂ウォークラリーに職員が参加して地域の方々との交流を行う事ができました。	地域からの花や野菜の差し入れは当初から続いており、月の清掃活動には代表者が参加している。入居者に馴染みの散歩コースではお地藏様を拝んだり、山々を眺めては手を合わせ、「二の岳、三の岳、金峰山！」と決まって歌も飛び出している。コロナ禍にあっても社会の状況を見ながら久々の開催となった田原坂ウォークラリーを沿道から応援し、校区の文化祭に出品した作品をコミュニティセンターに見に出かける等、地域での暮らしが展開されている。	今後、地域交流室を有事の際などに開放したとしており、取組が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭にご利用様が全員で作りに上げた作品を展示して地域行事に参加行う事で、認知症に対する理解に繋がっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議を継続している中、避難訓練や食事会等で利用者様方の状況を見て頂き、意見や提案を頂く場面が、感染防止のため出来なくなっているため、書面や口頭でお伝えしている。	地域のコミュニティセンターを会場として開催しており、ささえりあや校区の有識者、自治会長や民生委員、家族等が参加している。ホームのこれまでの取組を通じて状況をしっかりと把握されており、会議ごとに入居者の現状や事故報告、身体拘束や看取り支援について新たな情報を発信している。家族へはホームページを通してみてもらうよう声掛けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への問い合わせや相談は事前に電話にて内容を報告、更に書面にて助言を頂く事もある 包括支援センターの職員より、情報の提供を受けている	行政への相談事や質問にはその都度応じてもらい、良好な関係を継続している。包括センターの職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホーム運営に理解を得ながら地域情報もたらされ、共に地域福祉の向上に努めている。外部評価の結果は運営推進会議の中でも提示し、参加者に見てもらおうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する行為は行っていない。臥床中はベッドを低床にし、巡視と見守りの徹底を行い事故防止に繋げている。 玄関の施錠は日中は行っていない。常に見守りと寄り添いのケアを行っている。	玄関に身体拘束の排除宣言を掲げ、ホーム内研修を実施しているが、隣接する多機能ホームと共通の検討事項などがある場合には、合同で開催している。拘束そのものがやっつけられない事として認識しており、居室などにセンサーは使わず物音がしたらすぐに駆け付ける事としている。会議は毎回議題を決め、職員自身が進行しながら共に拘束について向き合う時間としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を行い、心理的 身体的な虐待が見過ごされないように、又毎月の勉強会を通して、職員同士が声かけ合い、お互いに注意を払い、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方々が利用していないため、十分な研修機会もなく理解をしていないのが現状である。これからの時代は必要性が高くなる制度の為研修計画を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に対して、十分な時間をとり、内容の説明を行い、同意の上署名捺印を頂いている。又疑問がある場合はその時点で説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時は都度、現在の状況をお話しし、写真等にて日々の生活状況を伝えている。 会話の中で家族の思いを聞き取れるように努めている。又改善が必要な場合は日頃のミーティングで早急な解決を行うようにしている	利用料は家族の持参とし、ホームでの入居者の様子を見てもらうようにしている。職員は入居者の現状を話しながら直近の写真などを紹介し、意見や要望を引き出して対応に努めている。入居者の要望は普段の会話から聞き取り、日々の支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に思いを伝えられるような雰囲気づくり、又個別に面談をする機会を作って耳を傾け、業務に反映できるようにしている	職員は会議の席ばかりでなく、普段からケア向上につながる意見や気づきを提案している。ホーム内は職員が意見を出しやすい環境にあり、出された意見は早めに対応できる体制が取られている。希望休に対応しながら有休は協力取れるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1日の仕事が勤務時間内に終わるように、記録や業務内容を見直しを必要に応じて行っている。又キャリアアップに繋がる資格取得等に積極的支援を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員一人が講師となり、各自計画を立て、下調べ等を行い発表を行う場を作っている。参加した職員と一緒に学び、皆で意見を出しながら、学びの機会を持って、自己の向上に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加を通して交流の機会を作っていたが、コロナ禍でズームによる研修であるため交流の場が確保できずらくなってきている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族から今までの生活歴をしっかりと聞き取り、本人の何気ない言葉や動きにしっかりと目と耳を傾け、信頼関係を築けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来苑時には、利用者様の近況を伝え、話しやすい雰囲気づくりに努めています。又面談にもしっかりと時間をかけて、傾聴を行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人家族との話をしっかりと聞き取りながら、最優先すべき支援又は課題を見極めていき、適切な対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る中で、日課としてできる事を見つけ出し、役割を持って、職員と利用者様が共に協働作業を行う関係性を大事にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限を行う中であっても、窓越しできちんと顔を合わせて、お互いの声の聞こえあえる環境を作り、「顔を見るだけでもホットする」の家族の声を大事にし、面会時は日頃の写真や近況をお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの医師による診察を継続して行い、本人と信頼関係の整った医療機関との連携を行っている 又馴染みの散髪屋による整髪も徐々に再開し始めている。	職員の入れ替わりがなく入居者との馴染みの関係性がアットホームな雰囲気を作り出している。散髪のため来訪する地域の理容店主とは日にちを決めず、必要な方がいれば来てもらっており、入居者が安心してカットを受けられている。野菜の収穫から保存食作りや干し柿づくりなどを入居者が手際よくこなされており、日々の食卓にもものぼっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係性をきちんと把握し、ホール内の席や配置を工夫しながら、利用者同士が穏やかに過ごして頂くように配慮している 両隣を特に見極めながら席を決めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、家族よりの相談事等には、出来る範囲で支援を行い、退所された後でも関係性は大事にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や入浴時に本人がリラックスされている場所で、お話をしながら、本人の望むことや困りごとを把握できるように、対話重視でケアに当たっている	入居者の希望や思いは日常の関わりから聞き取り、特に1対1になった際にはゆっくりと話をするように努めている。殆どの入居者が自らの思いを口にされており、家族の面会時には入居者にホームでどのように過ごしてもらいたいかなど希望を聞き取り、プランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や今まで関わったサービス事業所からの情報を得て、今までの暮らし 環境等を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活状況 言葉 動き等を記録に残し、それを基に職員が話し合いの場で共通認識を持つようにして、利用者一人一人の現状を把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と日常の会話の中から、又家族来苑時の話し合いの中から意見を取り上げたり、病院受診の際に主治医の意見を貰いながら、介護計画書を作成している	職員はケアカンファレンスで入居者の思いを提案し、プランにつないでいる。入居間もない方の目標には気の合う方との会話や此処での生活に不安なく過ごしてもらうことをあげ、テーブル席への配慮や他者との懸け橋となるような内容としている。定期的な評価で内容を見直し、現状に即したプランとし、家族への説明にあたってはわかりやすく伝えることを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の排泄 食事等の記録や服薬 バイタル 入浴と個々の1日の状況特に言動や行動に対しても情報を共有し、計画の見直しにも繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診への付き添いや、日用品の購入等、本人家族の状況に併せて対応を行っている 又利用者の方々の心身の変化に合わせた支援内容の見直しも都度行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事の中止が近年続いていたが、今年の秋頃より少しずつ行事の再開が行われるようになり、田原坂ウオクリーの応援や文化祭に作品出品を行い、地域の一員としての関わりをもつことで豊かな暮らしに繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望により、入居前からのかかりつけ医との関係を継続して頂くことで連携もでき、緊急時などの対応もスムーズに行える	本人・家族の希望により入居前からのかかりつけ医を継続して支援しており、家族やホームで受診を行っている。専門医については、家族と職員も同行するなど状況に応じて対応している。受診後は異常や薬の変更の有無にかかわらず、電話で結果を報告し質問などを受けている。歯科は地域の歯科医に必要時に受診に出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に気づいたら、すぐに看護師に伝え、看護師判断の下病院受診に繋げている また看護師からの基本的な看護知識の研修等も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室を通して、情報交換を行い、入院中も経過報告を受けて、退院に伴う体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化していく早期の段階で、家族 医師との話し合いを行いながら、今後どうしていくかの本人家族の意向を確認しながら、看取り期に入ってから家族 医師 訪問看護と連携して穏やかな最期を迎えられるように努めた	入居時に継続した医療が必要でなく、ホームに出来得る支援に取り組んでいることを伝え、その時点での意向を聞いている。当初は返答が難しい家族もあり、状況に応じて相談の機会をもっている。在宅医療に力を注いでいるかかりつけ医の協力により、3月にお一人の看取り支援が行われている。亡くなる少し前に新しい住まい(自宅)を見られ、安心された表情で最期を迎えられたようである。	コロナ禍の看取り支援であったが、看取り期は時間に関係なく面会に来て欲しいことを家族へ伝えていく。ホームの心づかいが伝わってくる。縁あって入居された本人・家族にこれからも最良の支援を提供していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師から急変時の対応や注意点を、勉強会を開いて、介護の実践指導を受けている 又夜間一人での勤務の為、連絡体制を整えて応援体制をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等地域の方の協力の下年二回実施していたが、コロナ禍で延期している 発電機 水 米の備蓄は行っている	今年度は座学での訓練を2回実施している。火事は火を出さない事が一番であり、安全チェックは意識を持って毎日行っている。災害備蓄として3日分の確保と、井戸水も使用できる。また、運営推進会議の中でも提案しているが、代表者は災害時に交流室を地域の避難所として提供していきたいとしている。	今後は感染症の状況を見ながら、実際の避難訓練の実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生き立ちやその人の人格を尊重し一人一人それぞれに合わせた言葉かけや対応を心がけている 特に排泄時や入浴時には一層の気遣いを行いながらケアに当たっている	呼称は苗字にさん付けを基本とし、職員は時には方言を使いながら一人ひとりに応じた言葉かけにより信頼関係を築いている。職員へは守秘義務の徹底や接遇など会議や日々の中で振り返りを行っている。個人情報の使用については家族の了承を得ており、活動を写した写真はスピーディに見てもらったり、ブログにあげている。身だしなみやおしゃれはその方らしさを表すものであり、季節や好みに合った衣服や髪形など希望や必要なサポートを行っている。	お化粧をされる方や地域の理髪店による訪問カットは、ゆっくりと会話をしながらされており、入居者も楽しみみの時間となっている。化粧品や衣類の購入など今後も家族の協力を得ながら、継続した支援に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけの工夫をしながら、利用者本人が自己決定しやすいように理解できる声かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の事は自分でと利用者本人が持っている生活能力に沿って、家事等(洗濯干し たたみ 自室の掃除等)を行って頂き、無理強いはせず、できない所はみんなで助け合うという思いやりを大切に生活を送っていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方には衣類は選んでいただいているが、本人で選ぶことのできない方は、その方の好みに合わせるように注意を払っている 又散髪も定期的に地域の方をお願いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝採れ野菜を利用者の体力等に合わせて、揃えたり 洗ったりとして食材に使っている 又芋堀や柿ちぎり 干し柿作りをみんなで作り食事やおやつを楽しんで頂いている 食器洗い等無理強いせずに自然な形で参加される方をお願いしている	「食事には妥協できない！」と代表者が語るように、ホームの食事は開設時から、自家栽培の無農薬野菜、専門業者から届く、鮮魚、精肉をはじめ拘りを持った食材で作られている。栄養士が作成した献立を基本としながら、入居者の好み、季節、家庭的な料理を取り入れ、専任者によって作られている。器や盛り付けにも気を配り、行事食や1・15日の赤飯、普段の料理や、食事の様子なども毎日のブログの中で発信している。入居者は食事の度に「おご馳走な～！」と言葉にされるようであり、職員も同じものを摂ることで、思いを共有でき活力にもなっている。	野菜の収穫や収穫した野菜を洗い漬げ物作り(高菜・白菜など)、渋柿契りから干し柿作り、里芋など野菜の皮むきをはじめ、入居者の出番が数多く用意されている。入居者の楽しい食事支援が継続されていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一口で飲み切れる量を頻回に提供している 又お茶以外の飲み物も間で提供している 食事量は一人一人の摂取量を確認しながら個々に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で出来る方は見守りを行っている 介助を必要とするかにはその方の能力に合わせてケアを行っている。夕食後の口腔ケアは全利用者様のハミガキ仕上げを行い、磨き残しがないようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握できるように、排泄表を活かして、自力排尿ができない方には時間を見ながらトイレ誘導を行い排泄を促す 終日トイレでの排泄を全員行っている	昼夜トイレでの排泄を支援しており、リハビリパンツや布パンツで過ごされる方も2名おられる。トイレは清潔を心掛け、自立の方の継続や必要に応じて誘導が行われている。排泄用品はホームで準備しているが、家族が訪問を兼ねて持参される方もおられ、購入の参考になるよう適切な品について伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の記録を基に排便コントロールを行っている 適度な運動と水分の提供を行い、便秘の予防に繋げている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間予定は立てているが、その日の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。午後不穏傾向がある方は午前中に対応を行いながら、湯船で気持ちの良いひと時をと思いついて対応を行っている	入浴は入居者の話を聞く、傾聴の時間と捉えており、全員湯船に浸かりながらゆっくりとした時間を持たれている。基本的に週3回、午後を中心に支援しているが、午後からの希望にも対応している。拒否をされる場合は、翌日に変更したり職員を交代しながら無理強いつせず対応している。入浴後は保湿や水分補給も季節に応じ(夏はスポーツ飲料、冬場は麦茶など)で準備している。脱衣所や浴室は細かに掃除され、外の景色を眺めながら入浴できることはホームの特徴である。	入浴を清潔保持だけではなく、入居者の話を聞く時間として捉える事で、思い出や不安なことなど個々の思いも知る事が出来ている。職員の傾聴が安心して繋がっていると思われる。変わらぬホームの姿勢に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	質の良い眠りについてもらうために、1日1回は外の空気と太陽を浴びて散歩を行っている 又居室の温度 寝具調整等も季節に合わせて環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師を中心として行っている 3重のチェックを行い誤薬防止に努めている 薬の変更や新しい入居者の薬に関しては、勉強会で職員全員が把握できるように、看護師より説明を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に合わせた家事活動やレクリエーションを毎日行いながら役割や楽しみを持つ生活の場を提供できるように支援している 天気の良い日は外でのお茶会やドライブ等で気分転換を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍になる前は、馴染みの美容院にお連れして、カットや毛染めが出来るように、お店の方の協力の下行っていた 最近はお出かけが出来ないため、地域の方のご厚意で、来苑してカットを行っている	コロナ禍にあっても職員は感染症対策や日々の健康管理に努め、近隣や敷地内の散歩をはじめ、庭先では収穫した野菜の選別や洗浄、漬物作りなど変わらず支援している。また、花見や渋柿契り、トイレの有無を考慮し季節の外出が支援されている。個別の外出では家族の希望や協力を得て実施しており、新築の家を見学に行き、喜びと安心で帰園された方もおられる。入居者の活動の様子は、管理者が毎日ブログにあげており、訪問を控えている家族にとって安心と楽しみに繋がっている。	入居者の楽しみとなる外出支援を職員は季節やその時々で工夫し無理なく取り組んでいる。また、毎日のブログ更新で家族は本人の様子をタイムリーに知る事が出来ている。安全面にも配慮しながらの外出は職員にとって苦労もあると思われるが、変わらぬ支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状から金銭所持はむづかしいため、家族に相談をして必要なものは購入させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話を希望される方はいないが、贈り物が届いたときは電話にてお礼ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に大きな日めくりカレンダーを掛けて、毎朝日付 曜日の確認を声を出して行っている 又季節の花を飾ったり、外の日差しを受けたりと気持ちの良い空間作りを行っている	明るいきりびんぐ食堂には、入居者と一緒に取り組んだ作品の掲示やカレンダー(日めくり・月ごと)も大判であり、入居者にも見やすい物となっている。また、神棚は個々の拠り所となっており、手を合わせる方も多く、努めてきれいな花を供えるよう心掛けている。入居者の楽しみ事の時間や午後からは職員のピアノ伴奏による合唱も日課となっている。また、歌詞は1番のみ歌い、別の曲に移ることで飽きがなく数多くの曲を口ずさめている。穏やかな時間と賑やかな時間のメリハリと、入居者を中心にした職員のケアも居心地の良さに繋がっている。	流し台も備わった地域交流室が現在、コロナ禍にあり活用に至っていない事は残念である。以前のような交流の場となるためにもコロナの終息が待たれる。個々の手形を活かした“たき火”の製作品は入居者も自信の作品であり、校区の文化祭に出品されてる。今後、ホーム外で紹介されるような機会があれば、家族へも案内することで、双方がより楽しみになると思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこをしながら顔を見合わせお喋りを楽しんだり、ソファで自分の場所を作り寛いだりそれぞれの居場所で過ごされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で見慣れたものや使い慣れた馴染みの物、布団 家具 写真 小物等を入居時に持ち込んで頂き、落ち着いた気持で過ごせるように支援を行っている	キャビネットが備わった居室は、日々職員の換気や掃除、整頓が徹底され、気持ちよく過ごせる配慮がなされている。ホームの入居者は自宅から入られる方が殆どであり、持ち込みは新しいものではなく、寝具や衣類をはじめこれまで自身が使用していた物を準備されるよう伝えている。家族もそのことを理解し、馴染みやの品や自身の製作品(衣服他)などが置かれており、その方の趣味や特技、好みなども伝わってくる。居室の移動は基本的に行われませんが、空室が出た場合状況に応じて実施されることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に合わせ安全な動線を確保し 見慣れた風景や備品を大幅に変えることなく落ち着いた環境を整えて安全に生活が送れるようにしている		